



学生の英語力に対する 自己評価を高めるバーチャル交流

～崇城大学と明知大学(韓国)の学生による英語でのコミュニケーション～

研究シーズ概要

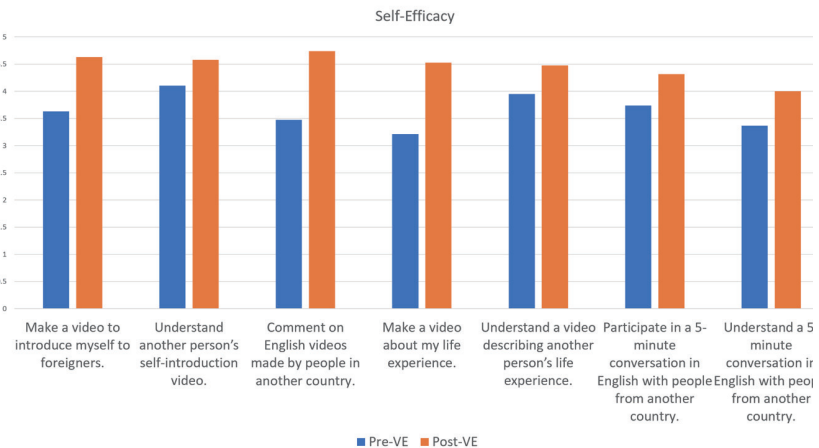
崇城大学と明知大学(韓国)の学生は、ビデオ交換、文書交換、オンライン会話を通じて互いのことを学び合いました。学期中、学生は数回の授業を通して、非同期および同期的に異なる文化の学生と会話を交わします。また学生は、交流の前後にアンケートに答え、体験を振り返った感想などを記入します。これまでに50人近くの学生を集めて試行しましたが、アンケートによると、交流後、学生たちが自分の英語力に自信を持ち、英語を使うことへの不安が少なくなったことがわかりました。体験を振り返る中では、「外国人と話すことに緊張したが、この機会を与えてくれたことにとても満足している」という学生の回答が多く見受けられました。ほとんどの学生が、この経験は貴重であり、毎年繰り返すべきだと回答しています。今後、400人以上の学生が同様の交流への参加を予定しています。学生の英語力に対する自信を高めることで、教室外での英語の使用量が増えることが示されており、こうした交流は、学生が最低限の英語力を必要とする職業に応募するきっかけになると考えられます。なお、交流が毎年継続されることで、大学間でより深い関係を形成することもできます。

利点・特長・成果

このバーチャル交流は、世界中にいる仲間と協力してタスクを遂行するGVT(Global Virtual Teams: グローバル・バーチャル・チーム)の準備を始めるものです。この交流で学生は、多くの人々が外国語として英語を使い、また英語を母国語としない者同士でもコミュニケーションが取れる、というグローバル・イングリッシュに触れることができます。

バーチャル交流は、所得レベルに関係なく全ての学生が平等にアクセスすることが可能です。国際交流は非常に有益である一方で費用がかさむこともあります。バーチャル交流は、学生に費用がかかることはありません。

右図はバーチャル交流前と交流後の自己評価平均値を比較したものです。交流後はすべての項目において学生の自己評価の平均値があがっていることから、バーチャル交流が学生の英語力に対する自信を高めるのに有効であることが示されています。



キーワード

バーチャルエクスチェンジ、グローバルバーチャルチーム、グローバルイングリッシュ、異文化コミュニケーション

本技術に関し、対応可能な連携形態(サービス)

知財活用	否	技術相談	可	共同研究	可
施設機器の利用	否	研究者の派遣	否	技術シーズ 水平展開	否

開発段階

5	第5段階	製品・サービス化(試売/量販)段階	2	第2段階	試作(ラボ実験レベル)段階
4	第4段階	ユーザー試用段階	1	第1段階	基礎研究・構想・設計段階
3	第3段階	試作(実証レベル)段階			

SDGsの目標

4 質の高い教育をみんなに

8 働きがいも経済成長も

10 人や国の不平等をなくそう